



### 第3回：連合千葉（日本労働組合総連合会千葉県連合会）

#### 連合運動を外に広げる取り組み

#### 一人びとが多く集まるイベント等を通じて

会 長 永富 博之 氏  
事務局長 中島 正敏 氏

#### 1. 「社会連帯活動」の位置づけと内容

—「社会連帯活動」について、貴組織の運動方針ではどのように位置づけていらっしゃいますか？

【中島】連合千葉では、連合本部の運動方針にもとづいて全体の運動方針を定めています。運動方針は3つの重点分野と4つの推進分野で構成されています。そのうち「社会連帯」に関する項目は、本部の推進分野1「社会連帯を通じた平和、人権、社会貢献への取り組みと次世代への継承」と、推進分野3「ディーセント・ワークの実現に向けた国際労働運動の推進」に該当します。

— 一次に、具体的な取り組みについて教えてください。

【中島】先ほどお話しした、推進分野1「社会連帯を通じた平和、人権、社会貢献への取り組みと次世代への継承」を軸とした、主たる活動を5つご紹介します。

1点目は、「支え合い・助け合い運動の推進」です。そのなかで取り組んでいる「連合・愛の

カンパ」では、社会貢献活動に取り組むNPO・NGO等を地方連合会が審査・推薦し、助成金や物資の支援をおこなっています。また、労働組合や地域のNPO・NGO等による「支え合い・助け合い」活動を紹介しサポートをする「ゆにふあん運動」の一環として、連合千葉では、メーデーを通じた募金や障がい者自立支援もおこなっています。

2点目は、「平和運動の推進」として、平和行動に組合員が参加するなどのかたちで参画しています。また、連合千葉独自で平和集会を開催しており、そのなかで講師を招いた講演会も設けています。

3点目は、「多様化する人権に関わる課題への対応」として、連合本部の取り組みに準拠しながら、就職差別や人権救済に関する取り組みをおこなっています。

4点目は、「自然災害への取り組み強化と事業継続計画（BCP）の策定」です。まだ十分にできていませんが、自然災害の発生時にボランティアを募り、被災地に派遣しています。直近では、2023年9月に茂原市で水害が発生した際に、茂原市社会福祉協議会と連携してボランティア活動を実施しました。

5点目は、労働者の祭典・メーデーです。コロナ禍で開催できなかった時期もありましたが、2023年の第94回千葉県中央メーデーは、コロナ禍以前よりは規模を縮小したものの、4年ぶりに会場で開催することができ、約4000人の働く人たちが集まりました。

—ありがとうございます。幅広い領域の活動をされているということがわかりました。このような社会連帯活動を進めていくにあたって、課題と感じておられることはありますか？

**【永富】** 連合や地方連合会の取り組みにおいて、社会連帯活動も含め、社会から求められている役割を果たすことが非常に重要であると考えています。活動を推進するうえでの最大の課題は、運動資源が乏しいことです。連合千葉では、取り組みや運動の企画立案をおこなう委員会がありますが、担当者が企画運営や細かな調整で手いっぱいになってしまっています。連合が中心となってさまざまな団体・組織と連携しながら、課題解決に取り組めることが理想ですが、実際は運動資源、つまりヒト・モノ・カネに余裕がないのが現状です。

社会連帯活動の視点では、連合千葉が直接取り組む活動のほかに、さまざまな団体とかかわりがありますが、なかでも千葉県労働者福祉協議会（以下、労福協）との関係は深く、私たちも一緒に活動しています。

## 2. 労働者福祉協議会との連携

—連合千葉の取り組みをお聞かせいただき、ありがとうございます。運動資源が課題ということもよくわかりました。労福協とのかわりも深いとのことですが、こちらの活動について教えてください。

**【永富】** 私は千葉県労福協の会長も兼務してお



写真左：会長 永富 博之氏

写真右：事務局長 中島 正敏氏

り、フードバンクなど様々な取り組みで連携しています。具体的な取り組みとして、2つご紹介します。1つ目は、千葉県労福協の本体事業として運営している「ちばライフサポートセンター」です。これは、すべての人に生活相談支援活動を提供する機能として、連合千葉、千葉県労福協、中央労働金庫千葉県本部、こくみん共済coop千葉推進本部の4団体が主体となって2008年に設立されました。現在、週に1回程度、労福協の職員が電話相談を受けています。深刻な生活相談が寄せられることもあり、組合役員の経験で身に付けた労働相談等のスキルだけでは通用しないことが多い一方、対応できるスキルを持つ人材を新たに発掘することも難しくなっており、先ほどの話と同様に、担い手の発掘・継承が課題となっています。こうした背景からセンターのあり方の見直しを検討していますが、コロナ禍で生活に困窮している方々が多く存在するなかで、できうる範囲で事業を続けているというのが現状です。

**【永富】** 2つ目は「野田市パーソナルサポートセンター」事業です。これは、野田市からの受託で千葉県労福協が実施している生活困窮者自立支援事業です。立ち上げ当時の市長がこの事業に前向きであったこともあり、スタートを切り軌道に乗ってきたところです。野田市の事例

を通じて蓄積された労福協のノウハウを、今後も他の行政からの要請があれば活かしていければと考えています。

—労働者福祉を支える重要な取り組みをされている一方、人手不足が深刻になっているのですね。

【永富】はい、労福協でも人手不足は大きな課題となっていますし、そもそも取り組みの認知度が低いことも課題であると感じています。労福協がどのような位置づけでどのような運動をしているか、さらに、未組織労働者や働いていない方々も含め、運動の輪をいかに広げていくのかについて考える必要があると思います。労福協では社会的な取り組みや行政への要請などもおこなっていますが、取り組みの領域が幅広く、たとえば署名運動など人手が伴う運動については、思うように取り組めていない現実もあります。

### 3. 他の団体との連携

—労福協との連携についてお聞かせいただきありがとうございます。他のNPO団体などと連携についても教えてください。

【永富】連合千葉としては社会福祉活動に取り組まれている団体へ評議員や理事などの立場で参画しています。たとえば、孤独や不安で悩む人の相談窓口である「いのちの電話」について、千葉県では社会福祉法人千葉いのちの電話がこの事業を運営していますが、この法人に連合千葉から私が評議員として参画しています。

また、労福協の会員団体の1つでもあるNPO法人地域創造ネットワークちばにも、連合千葉から役員を派遣し活動に参加しています。地域づくりに寄与することを目的に設立されたこちらの団体では、「ちばユニバーサル農業フェスタ」など、さまざまなイベントを企画・

実践しています。これらのイベントには組合員も参加しています。

—活動に実際に参加された方からはどのような感想が聞かれますか？

【中島】とくに、ユニバーサル農業フェスタは、参加した組合役員のあいだでも人気が高いと思います。地場の野菜を販売していることもあって好評です。

【永富】そのフェスタでは、多くの福祉団体も出展されており、障がいを持たれている方々が一生懸命に作ったお菓子や工芸品などの販売もされているのですが、そこで頑張っておられる姿を目の当たりにすると、「こういう活動、いいよね」と感じられ、活躍の場をさらに増やすことができるといった相乗効果が生まれるのではないかと感じました。このようなことは、実際に訪れて初めて分かりますね。

このような取り組みを多くの方々に知っていただくためにも、組合員をはじめ多くの方々への参加に向けた運動を広げていきたいと思っています。

### 4. 今後の展望

—運動の広がりという課題を考えた時、たとえば小さな施策であっても地道に取り組んでいくことで、そこから連合千葉の存在感が大きくなっていく可能性を秘めているのではないのでしょうか。お話をうかがうなかで、希望のある課題のように感じました。

【永富】こちらの戦略や認知度の低さが問題かもしれませんが、SNSが普及しているとはいえ、連合千葉のホームページへのアクセス数は残念ながら多くありません。一方、芳野会長が連合初の女性会長として注目されていたり、春季生活闘争でも賃上げの機運が高まっていたりする

なかで、連合の認知も広まりつつあります。言い方が適切かは分かりませんがこれらも上手に活用しながら、頼りになる存在としての認知度を広げていきたいと思っています。

—メーデーについてもお話しいただきましたが、連合の認知を広める取り組みとして重要ではないかと思います。こちらについても詳しくお話を聞かせていただけますか？

【永富】連合千葉のメーデーは福祉団体をはじめ、多くの関係団体と連携しながら開催しており、模擬店の出展などでご協力いただいています。出展いただいている団体としても認知度向上や、障がいを持たれている方が活躍できる場をつくったりするという点で、お礼のお言葉をいただいています。メーデーでは、チャリティー抽選会を行っていますが、集まった募金を出展いただいている団体さまの運営の一助になればという思いから、チャリティー募金を毎年複数団体へ寄贈しています。事業所に赴いて私から手渡しで寄贈させていただいていますが、施設の皆さまの手厚い歓迎とともに施設の見学もさせていただきました。頑張っている方々や職員の方々の反応など、みなさまのご苦勞を少しでも自分で確かめる機会はとても大切であり、有意義であると感じています。

—永富会長の実際のご経験をおうかがいすると、社会的な取り組みの意義やインパクトがより伝わってきます。

【永富】私は千葉県の献血推進協議会の委員にもなっており、連合千葉としてもメーデーの会場などに献血バスに来てもらうなど、献血の推進に協力させていただいています。これは一例ですが、メーデー以外でも世論喚起として人が多く集まる行事・イベントを指向していますので、そのような機会に連携している団体等に場

所や活動の機会を提供するということも、社会連帯活動のかたちのひとつかもしれません。

コロナ禍が長期化し、人的交流が制限されたなかで、私たちの活動を広げる場が激減しました。しかし、そのような状況のなかでも、2023年は集合型でメーデーを実施し、再び人が集まれる場にすることができたと思います。リモート形式などの新たな方法を併用しつつ、同時に人が多く集まる機会もつくり、その中で連合の活動の意義や目的をみなさんに知っていただくことで共感が生まれ、社会連帯活動を含む取り組みを広げるきっかけにしていくことが理想です。

—その機会を作る力が、連合千葉にはおありだと感じました。日本の労働運動の中心的な存在のひとつとなっている連合・地方連合会の取り組みであるということは強みであるように思います。行政との連携も深いのでしょうか？

【永富】たとえば多くの県の審議会などの委員として参画するなど、労働者の代表として認知いただいている立場で地方連合会として行政にも深く関わっています。労働者代表としての行政との関わりも活かしつつ、多くの人の結集によって社会運動を展開できるということは、やはり労働者の集まりである連合および連合千葉の強みなのかもしれません。連合千葉は単組の活動ではなく労働運動を全体的に推進していく立場ですので、社会的な機運を高めていくことや、賃上げの効果を働く人びと以外にも波及させていくことが私たちの使命であると感じています。

—とくにこれから推進していきたい、力を入れていきたいと考えておられることについて、お聞かせください。

【中島】組織外に向けた取り組みの強化や見直しについては、連合千葉の7つの地協にも要請しています。組織内での取り組みのみならず、これからは、関係団体との連携も含め地域で活動を進められるような枠組みが必要であると感じています。

【永富】労福協では、たとえば奨学金返済に関する相談や、高等教育の無償化に向けた政策提言などを具体的な課題への対応をおこなっていますが、連合千葉の場合は、やはり連合を知ってもらい、その連合から発信する社会構想的な課題がいかに必要なのか、運動として広げていくことができるかを考えることが重要だと思います。

【中島】街宣行動を通じてアピールするなど、社会への発信に力を入れていくことが求められていると思います。連合千葉も各地協も、その発信の中で社会的なニーズや問題に触れながら、共有や認知を広めていき、社会的課題に対処する政策・制度の要求を県や自治体に要請し続けていくことが大切だと考えています。

【永富】連合本部の方針では、「連合プラットフォーム」を活用した中小企業や地域の活性化に向けた取り組みを重点分野に掲げていますが、公労使による様々な分野への参画はしていますが、連合千葉が中心となったプラットフォームの構築には至っていません。多くの方が連合に集い、共感を得られるような運動によって連合からの声掛けに応えていただける信頼関係づくり、社会対話の推進が肝要です。運動の目的をすり合わせ、こちらの運動資源も見極めたいとすることにはなりますが、私たちの取り組みに賛同いただける団体をつくることによって、それが連帯活動につながっていくのではないのでしょうか。

—労働の観点なくして社会的な課題を捉えるのは難しいように思います。“働く”観点から取り組まれている連合千葉が、他の領域で活動している組織・団体からも共感を得られるような発信をしていかれることが、まさに社会連帯活動だと感じました。

【永富】たとえば春闘は労働組合の代表的な活動ですが、連合や労福協に求められる役割は、会社と組合の枠を超えた運動をめざすことであると思います。人びとからの共感を得ることはもちろんですが、組合活動の枠を超えて「労働運動とは何か」ということを役員や組合員が考え、未組織の労働者を含め環境をより良くしていけるよう、連合というネームバリューやスケールメリットを活用しつつ、運動を外に広げていくことが重要だと考えています。

#### 組織概要

構成組織：34 産業別構成組織、7 地域協議会  
組合員数：15 万人（2024 年 7 月時点）  
結成：1989 年 11 月 28 日  
URL <http://chiba.jtuc-rengo.jp/>

（インタビュー日：2023 年 12 月 19 日）

このインタビュー連載は、2024 年 5/6 月号よりスタートしました。地方連合会の連帯活動は、組織（地域）ごとに特色があり、多様な活動が展開されています。この活動に光をあて、地域の運動がどのように紡がれてきたのか、また、これからどのように展開していくのか、インタビューをつうじて（再）発見できればと考えています。